

今こそ知りたい！ 令和時代の子宮頸がん予防

～知ることは変わること、一緒に考えてみませんか？～



2008年に20世紀最大のウイルスの発見としてノーベル生理学・医学賞で脚光を浴びたのは、子宮頸がんの原因として広く知られているヒトパピローマウイルス（HPV）でした。

日本では、2022年4月にHPVワクチンの積極的勧奨が再開されましたが、キャッチアップ世代が無料で接種できるタイムリミットが来年3月末に迫っています。

日本がおかれている現状と課題に向き合い、今こそ正しく知って一緒にこれからのことを考え、語り合いませんか？皆さまのご来場をお待ちしています。

プログラム

総合司会：中田さくら 川崎市立川崎病院 産科・婦人科部長
植田 啓 ひまわりレディースクリニック 院長

- 13:00 開会挨拶
中野 眞佐男 一般社団法人 神奈川県産科婦人科医会 会長
- 13:05 **1 日本の子宮頸がん予防の現状と課題**
宮城 悦子 横浜市立大学 副学長
医学部産婦人科学教室 主任教授
- 13:20 **2 HPVワクチン接種について**
中山 克仁 神奈川県 健康医療局 保健医療部
健康危機・感染症対策課 感染症対策担当課長
- 13:30 **3 HPVワクチンの効果：
若年患者さんの視点からご報告**
小貫 麻美子 昭和大学 医学部産婦人科学教室 准教授
昭和大学病院 婦人科病棟 医長
- 13:45 **4 選択肢を知り、自分でつかみ取る
子宮頸がん予防**
高橋 幸子 埼玉医科大学 医療人育成支援センター・
地域医学推進センター、産婦人科 助教
- 14:00 **5 大学生の私たちが伝えたいこと**
内堀 菜湖美 (女子栄養大学 学生サークル「たんぼぼ」代表)
辻本 愛菜 (埼玉立大学 保健医療福祉学部看護学科4年)
山原 万由子 (埼玉医科大学 医学部医学科3年)
- 14:20 **パネルディスカッション
知っておきたい子宮頸がん予防の今とこれから**
- 14:55 閉会挨拶
佐治 晴哉 神奈川県立がんセンター 婦人科部長
一般社団法人 神奈川県産科婦人科医会
悪性腫瘍対策部

日時

7月21日(日)
13:00～15:00 (開場12:30)

会場

はまぎんホール ヴィアマーレ

アクセス

JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」下車
動く歩道利用徒歩5分

参加費

無料(事前申込が必要です)

申込方法

特設サイトにアクセスのうえ
お申し込みください。
(<https://kanagawa-keigan-yobo.com>)
7月16日(火) 締切

定員

200名
応募多数の場合、抽選のうえ、当選者に参加証をメール通知します。

